

高雄日本人学校の風

校長 高口 和治

3月3日（月）

中学部朝会でこんな話をしました。「3年生が卒業して1, 2年生だけになりました。卒業式では、日本人の自覚という話をしました。学年と個人の自覚ということ話をします。学年が上というだけで偉いわけではない。例えば、校長は偉いですか？と、質問をしてみました。中学生は、すかさず、「偉いです。」と答えました。じゃ、私が半ズボンをはいて、汚い格好をして・・・、それでも「偉い？」と聞いて見ました。答えに詰まっていた。何を言いたいかというのと、と解説をしました。校長というのは、役割を与えられたもので、校長らしく、仕事をしたり、振る舞ったりすることで、「えらい」ということになる。同じように、中2, 中3になっても、それなりの動きをしないと、ならない。個人の自覚ということでは、どうかというのと、私は、中学1年の冬休みが終わった頃に、なんか友だちと遊ばなくなった。大人になりかけていたのか、人と自分の区別になったのか、ともかくそのようなことが、少しの間つづいた。中2の今頃は、生徒会長をして、かつ、陸上部の部長をして、そんな悩むこともなかった。ただ、個人としては、市では優勝したのに、地区大会では、体調を崩して、県大会にでることができなかった。これで、大事なときは、体調を崩さないように、それから注意をしている。」ということ話をしました。

3月5日（水）

3月29日に中正との正式契約を結ぶためにやりとりをしています。朝9時に日本人会の幹部に集まっていただき、検討をしました。弁護士にも見てもらっています。

習慣が違う上に、日本語を中国語に直すと言ひ回しが違うようになり、相手方校長とやりとりをすると、台湾ではそのようにはしない、と言われ。ここは、中国大陸でないので、契約をやぶったりしないから、契約書にそこまで盛り込まないでいい。ということになります。

また、学校運営委員会の幹部の方は、当然会社でこのようなことには、なれているので、これではだめだということになり、内容までは理解しているのですが、「ない」と「ある」との違いでどうなるかが想像できず、いちいち説明を受けると納得してしまいます。

3月6日（木）

子どもたちを見送ってから、卒業式の会場を先生方でチェックをしました。前日、きれいにテープを貼ったのにはげていた部分もあり、やり直しでした。先生方の話だと、一所懸命きれいにテープを貼ろうとひっぱってやったのが、結果的になったのでしょうと。（そういうこともあります）

3月7日（金）

小学部の卒業式でした。8人の卒業生が巣立っていきました。日本に戻る者、中学部に進学する者様々です。様々な思いがよぎったのでしょう、涙を流す卒業生もいました。

私は、いつもの式辞とは少しちがって、台湾の身近な様子をとりあげました。ゴミ収集の様子です。それも、荘さんという方が苦勞して今の仕組みを作り上げたというところを具体的に話をしました。偶然ですが、おわってから、日本人会長から「校長先生、5月か6月に荘さんを日本人会でお呼びするよ」とのことでした。

前の話になりますが、新潟のロータリーから本の寄贈について、新潟のロータリーで紹介されたということで、送ってきました。